

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

構成的グループエンカウンターの手法を活用した学級でのレクリエーションの年間計画を年度当初に作成し、月に1回程度取り組んで、望ましい人間関係を構築できるように支援している。毎月実施するレクリエーションを、校内研修会で教員が主導で決めるようにしている。

具体的な取組として、バースデイ・チェーンやさいころトーキング、無人島SOS、新聞紙タワー、エゴグラム、別れの花束などがある。こうした取組のねらいは、自己理解・他者理解・自己主張・自己受容・信頼体験・感受性の促進である。

掲示物を活用した取組では、季節を感じられるものとして、七夕の時期に生徒一人一人が短冊に願い事を書いて笹の葉に飾り模造紙に貼り出す取組を実施した。また、「ありがとうの木」と題して、友人への感謝の思いを紙に書いて貼り出す取組も実施した。

授業では、「求ム！やる気！学プロキャンペーン」と題し、授業の準備をしてから休み時間に入ったり、授業に積極的に参加したりした生徒を、各教科担当が積極的に見付け、生徒が持っているカードに押印し、学習への意欲を喚起している。さらに、特に努力した生徒には表彰も行っている。

課外活動では、6校時に小学生部活動体験を実施し、中学生が教える取組を行っている。

#### 【取組2】(B中学校)

道徳の授業では、ホワイトボードを使って班で活発な意見交換を行い、映像資料も活用している。また、学校行事の前には、「運動会クラスメイトのいいところ探し」や「宝さがし」など、班の中で活発なコミュニケーションが求められる題材を道徳の授業で学習し、他者理解を促して団結力を高め、魅力ある学級づくりを推進している。

#### 【取組3】(C中学校・D中学校)

様々な授業で4人組の学習活動を行っており、誰もがじっくり考えなければならない課題に取り組んでいる。この結果、一人一人が活動し、他者とのつながりを作り、クラスへの帰属意識を高めている。



また、各教科の授業の中で資料を活用したプレゼンテーションの場があるため、自分の考えを他者に伝え、自己肯定感を高めることができるよう支援している。

#### 【取組4】(全巡回担当校)

不登校対応巡回教員が配置された背景等を伝えるミニ研修会を各校で実施した。オンデマンドでの配信も活用し、全教職員が確認できるよう工夫した。研修会では、生活意識調査の分析結果と共に、都の不登校の現状や各校の通常授業の工夫例を紹介した。また、定期的に教職員向けに「巡回通信」を発行して各校の事例を共有した。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（D中学校）

毎週決まった曜日に1時間、学年担当教員に加えて養護教諭、不登校対応巡回教員、SC、SSW、特別支援教室専門員が参加して開催。個々の生徒の出欠席日数、1週間の状況、今後の手だてが学年ごとに明確にシートに示されている。今後の手だてについては、支援会議で適宜検討している。

### アウトリーチによる支援（B中学校）

各校で巡回教員が担任やSSWと共に、家庭訪問を行っている。その中で、校内別室登校ができるようになった生徒もいる。担任が連絡の取りづらい生徒に、不登校対応巡回教員から連絡し、当該生徒や保護者との面談を継続した。学習や進路、趣味等の話をする中で、登校への意欲を高めることができた。

### 校内別室における支援（A・E中学校）

A中学校では、校内別室で毎日3～5校時に、9教科と道徳の授業を実施している。通常の時間割に「校内別室担当」を盛り込み、校内別室独自の時間割を作成している。ここに通う生徒は後方の棚に教科書や教材を置いている。



E中学校には、カームダウンのためのミニテントやぬいぐるみ、ヨガマットが設置されている。また、不登校対応巡回教員が、毎週数時間程度、学習支援を行っている。



### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

校内別室支援員が、オンライン授業を実施する各学年の基準となるクラスの時間割をホワイトボードに毎日書き出している。生徒はヘッドホンを使用して、個々にいつでも自分のタイミングでオンライン授業が受けられる。



### 関係機関との連携（全巡回担当校）

各校で、SSW、SC、特別支援教室専門員、校内別室支援員が校内を巡回したり、教員と情報共有したりしている。また、教育支援センターや教育相談室とこまめに連絡を取り、生徒の状況を把握している。学びの多様化学校や地域の居場所等の見学や説明会への参加等で情報を得て、その後の支援につなげている。

## 成果

新しい不登校を抑制し、欠席の続く生徒や保護者の状況を把握できるようになってきた。校内別室への登校ができるようになったり、教室で授業が受けられるようになったりする生徒が増えた。

## 課題

生徒の社会的自立に向けて、生徒や保護者の状況に応じた支援の方法を考えていく。各校の実情に応じた支援の仕組みを確立していく。